

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	ふる里
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	平成28年 8月23日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されており、周りには季節を感じる事が出来る、花や木々がたくさん植えられています。行事の時等には楽園が丘の方達と一緒にい親睦を深めています。協力病院である大泉記念病院の医師が2週に一度回診に来てくれるため、利用者様をはじめスタッフや家族も安心感があります。渡り廊下を通り各棟に行きでき両棟のスタッフにて見守り、声掛けを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、蔵王山の東、青麻山の麓、緑多い閑静な小高い丘の上に特別養護老人ホーム「楽園が丘」と共にある。観音菩薩が見守っている広い敷地には、約100本の桜や四季折々の花が咲き、天気の良い日には入居者が散歩を楽しんでいる。蔵王町や地域住民等との関係も良好で、地域住民から旬の野菜等の差し入れがあり、季節感のある食事を楽しんでいる。大泉記念病院の全面的な支援があり、7月からは特養の看護師が毎週来訪し、入居者や家族の安心に繋がっている。入居者は、毎日次亜塩素で消毒・清掃された清潔で明るい食堂でテレビを見たり、談話コーナーや暖かな渡り廊下のソファで会話をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホームふるさと

)「ユニット名 ふる里

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてユニット会議時に職員間で話をして共有している。職員室内に理念を貼りいつでも見れるようにしている事により振り返りを行っている。	毎年振り返り、独自の理念「ゆったり・いっしょに・たのしく・豊かに」を継続し、具体化した「余裕・寄り添う・笑顔・思いやり」を作成した。クリスマスのプレゼント交換やレクリエーション時に楽しく実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方にはよく季節の野菜を届けてもらいます。行事、夏祭り等の際地域の方がボランティアや慰問にきてくれます。	夏祭りには屋台、縁日、イベント等があり、約300人が参加して盛大に行われた。町の文化祭には入居者の手作り作品を出展している。東京芸大のホルン演奏会は「楽園が丘」の入居者と共に楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保健福祉課の方々がやっている認知症サポーター養成講座の手伝いを行い、認知症についてやグループホームの役割について話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者より活動内容等の報告を行うとともに、委員の方々より出た話や意見をサービスの向上に活かす様にしている。行事やその時行った事の写真を見てもらいながら取組について説明している。	奇数月に年6回開催されている。活動内容、入居者の状況、行事の情報交換等が行われている。ドライブで、車椅子で行ける場所としてセキ宿ダムが綺麗との情報があった。行政や地域包括職員が不参加の時がある。	市町村職員または地域包括支援センター職員等が参加した会議を年6回以上開催することになっている。関係部署に依頼し、出席するようにしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や認定更新の実態調査で来所された時に待機人数や空き状況、利用者の方の現在の状況、町内の方のニーズ等の情報のやり取りを行い協力体制をとっている。	協力関係が築かれており、空き部屋、新入居者、見学希望者等に関する情報交換を行っている。管理者が蔵王高校で認知症サポーター養成講座やグループホームの役割について講話をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを開けており利用者様や地域の方々が入り出できるようにしています。又、法人全体の研修会を行い身体拘束についての知識を高めています。	各種研修計画があり、「施設内研修報告」により伝達し、全職員に「感想文」を書いてもらい確認している。車椅子の方の居室のトイレにセンサーを付けて、安全対策、排泄の確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にて虐待について学び、スタッフ同士でよく声を掛け合いケアにあたっている。特に言葉使いには気をつけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態として理解してもらえように行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には管理者とユニットリーダーとで説明を行い、理解、納得を得て了承して頂いている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々には気兼ねなく意見を言えるような雰囲気(したしまれるような)作りをしている。意見や相談があった時にはスタッフ間で話あったり、運営推進委員会にて助言してもらうようにしている。	面会時や電話等で家族の意見、要望を聞いている。面会の制限や特養に移るよりホームにいたい希望があり、対応している。「ふるさとだより」の写真で元気な顔が見られて良いと好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で意見や提案を出してもらい、実践できる事や良い方向へ向かう事については実践出来るようにしている。利用者からのリクエスト食やセレクト食等を行っている。	希望の休暇が取れるようになった。入居者全員と出かけた希望で、「かっぱ寿司」で外食した。毎月の誕生日にはプリン、イチゴ、ジャガイモご飯等を楽しむなど職員の見取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、各ユニットで目標を設定し達成できるように日々取り組んでいます。又、職場の環境や人事考課、条件の整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会や外部研修を受講してもらい、質の向上につながるよう努力しています。又、法人独自のキャリアパス制度を活用してもらい資格修得への学習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修会等に参加して、意見交換や、ストレスの解消を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に利用される方や家族の方に不安や困っている事について聞き、必ず本人に家族の方に「ふるさと」を見学をしてもらい少しでも不安な事をとりのぞけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に現在の状況や要望、困っている事聞かせてもらい、GHについての説明等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴して、必要としている支援を見極めながら話合いや行動から決めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲み話をしたり、御飯を食べ、食事の準備、後片付け等を行い良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活状況等の近況報告等を行い、状態の変化や通院等があった場合には電話連絡を行い状況、状態の報告行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が面会に来た時には、自室や共有スペースでゆっくりと過ごして頂けるように努めている。	家族と外食、墓参り、外泊する方がいる。友人が面会に来て、談話コーナーや渡り廊下の暖かいところでソファに座り、会話をしている。月1回、馴染みの訪問美容師が来ておしゃれをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまく関わり合えるように、定期的に食席を替えている。誕生会や喫茶店等の行事を増やし、みんなでいる時間を増やすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談やフォローを行うように努めている。又、利用されていた方が退所された後でも家族の方が地域住民として、そのまま運営委員を続けてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から希望等を聞き、なるべく意向にそえるような形で検討し支援している。希望や意向を伝える事が困難な方は今の現状、状態を考慮して、どのようにしていくかを決めている。	散歩、入浴等で1対1になると、「早くひ孫の顔が見たい」と本音を漏らしてくれる。入居者同士や職員との会話で「昔食べたタクアンが食べたい」「〇〇さんは焼きそばが好きよ」等が分かり、希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状態によりドクターへ相談して指示をいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見があればユニット会議で話し合ったり、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。	毎月モニタリングし、会議で話し合う。介護計画書は半年毎に、状況の変化時はその都度見直している。退院して車椅子使用の方の起立訓練や歩行介助を取り入れ、手押し車で歩けるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、スタッフ間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂き、それぞれの状況に合わせて、なるべく本人の意向に沿える対応を行っている。通院の送迎や付き添い、買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭に作品を出品するにあたりみんなで作品を考え作成したり、楽しく生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれがかかりつけの病院へ受診できるように家族と連絡をとり行っている。また、法人の車にて送迎を行う時もある。	協力医(大泉記念病院)の2週に1回の回診がある。蔵王病院は月1回、内科の往診がある。希望するかかりつけ医の受診も出来る。今年7月から特養の看護師が毎週来訪してバイタルチェック等をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で併設の楽園が丘看護課の方が週に1回来所して利用者様の状態観察、適切な処置の仕方や助言をしてもらっている。又、協力病院との連携がスムーズに行われるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や入院となった時、退院等に向けて協力病院の先生方をはじめ相談員等との情報交換や連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針を決め事業所でする事について家族に説明している。重度化した場合についての話し合いも必要に応じて行っている。	「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を家族に説明し、同意を得ている。昨年12月に、突発的に事例があり、協力医と町の協力を得た。職員全員が経過や対応手順を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変がおきた時には病院や救急隊に連絡を行い指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。救命処置やAEDの使用について内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が火災や災害が起きた時には協力していただけるような体制は築いている。	「楽園が丘」との合同で、春と秋の年2回、「回」は夜間想定で避難訓練を実施している。職員は毎週水曜日に、日中及び夜間想定で、どのように対応するかの流れを確認する独自の図上訓練を実施しているが記録がない。	訓練の実施計画、任務分担、避難要領、問題点、教訓、反省事項等や、消防署からの指導等を記録に残し、次回の訓練に繋げ、訓練の効果を上げる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合わせた声掛けやなじみの言葉や方言を使っている。声の強弱等に注意して対応に気をつけている。	呼び方は、名前に「さん」をつけて呼んでいる。声がけは、入居者の視界に入り、大きな声を出さないように注意している。排泄で失敗した時は、他の人達に気付かれないように部屋に案内し交換している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には自分の食べたい物をリクエストしてもらい提供している。自己決定の場面を出来るだけ増やせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体の状態やその日の状況、希望を聞きながら生活を送っていただくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装をしてもらうように声掛け等を行っている。又、行事の時にはお化粧をしたりしている。理髪の際に希望があればパーマもかけてもらえるように美容室に依頼、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼しやくや嚥下力に合わせ、ミキサー食や刻み食にて提供している。焼き魚を好まない方が多い魚の時にはフライ等、調理を変えて提供したりしている。又、毎食後食器洗いを手伝ってくれる。	準備ではもやしやの芽取り、野菜の皮むき等、後片づけでは下膳、食器洗い等を行っている。近所からの差し入れ野菜等が食卓に上がる。文化祭には寿司職人が寿司を握り、マグロのお替りが自由である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミやミキサー等、一人ひとり形態を変えて提供している。摂取時の姿勢を整えるように気をつけている。水分量が少ない方にはゼリーにして摂取してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きやうがい、口腔ケアを行っている。見守り、一部介助の方もいる。うまく行う事が出来ない方は介助を行っている。うがいが理解出来ずにそのまま水を飲み咽ってしまう事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けや誘導、介助にて排泄を行う方等、その方に合わせた排泄支援を行うように努めている。車イスを使用している方でもトイレ介助にて排泄を行っている方もいる。	入居者のパターンを確認し、誘導や声掛けを行っている。夜間でもトイレ使用を確認できるが、2名の方がセンサーを使用している。退院時オムツ利用の方が、定期的な声かけで昼間はリハビリになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やカスピ海ヨーグルト、冷水を提供している。水分補給も行っている。ドクターに相談を行い薬で調整している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番を変えたり、2名で介助を行いゆっくりと入浴してもらえるように、その方に合った入浴支援に努めている。	要望や身体状態に対応し、週2~3回の入浴である。拒む方には職員を替えたり、往診があるなど声かけの工夫をしている。車イス利用の方には職員2名で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動していただくように努めている。3時のおやつ後にはみんなで歌を唄ったり、体操を行っている。室内の温度等にも気をつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。薬の変更等があった場合は連絡ノートを使用してスタッフ全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、ゴミ捨て等、それぞれ出来る事を行ってもらっている。好きな方は毎日コーヒーを飲み、散歩や外気浴を行い気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを数回に分けて全利用者の方が外出出来るように取り組んでいる。天気の良い日は散歩やゴミ捨てで外に出れるように支援している。又、家族と好きな時に外出出来るように支援している。併設の施設で慰問がある時には出かけ楽しんでます。	ドライブは、春は白石のこけし村、温麺博物館、大河原のショッピングセンター等に、秋は柴田町の菊人形まつり、蔵王町のございんホールでの文化祭等に出かけている。日常的には、天気が良い日に、観音様周辺を散歩している。春は花見を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は利用者様、家族の要請を受け行っています。買い物等で使う際には出金して、台帳に記入を行っています。買い物に行った時には自分で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、好きな時に電話を掛けられる環境を整えている。家族から電話があった時には本人と話をしてもらうようにしている。手紙については郵便配達の時に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはソファーやイスがあり、誰でもくつろげるようにして、いつでも休む事が出来るようにしている。季節を感じてもらえるよう、みんなで作成した壁画や行事の写真等を飾っています。廊下には刺激の少ない光の電球を使用したりしている。	日当たりが良く明るい食堂では、テレビを見たり、「タクアン」を食べながらお茶を飲み、お話をして寛いでいる。談話コーナーや渡り廊下のソファでもお話をしている。共用場所と居室は、感染対策の次亜塩素で毎日消毒・清掃し、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファー、テーブル、イスを設置しています。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、水分補給や外気浴を行っている。面会があった時にも使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の必要な物や使い慣れた物、テレビやタンス、位牌等を持参している方もいる。写真や小物を飾りその方に合った部屋になっている。	位牌の水を毎日交換し、散歩時に見つけた花をあげている方がいる。自宅から持ち込んだ使い慣れた毛布、枕等を使用し、家族の写真や孫の絵手紙を壁に貼り、居心地の良い自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確保するうえでコールマットを使用している方もいる。声掛けや見守り、介助を行う事で安心して自分ができる事を行い、生活が送れるように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	わが家
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	平成28年 8月25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されており、周りには季節を感じる事が出来る、花や木々がたくさん植えられています。行事の時等には楽園が丘の方達と一緒にい親睦を深めています。協力病院である大泉記念病院の医師が毎週、回診に来てくれるため、利用者様をはじめスタッフや家族も安心感があります。渡り廊下を通り各棟に行ききでき両棟のスタッフにて見守り、声掛けを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、蔵王山の東、青麻山の麓、緑多い閑静な小高い丘の上に特別養護老人ホーム「楽園が丘」と共にある。観音菩薩が見守っている広い敷地には、約100本の桜や四季折々の花が咲き、天気の良い日には入居者が散歩を楽しんでいる。蔵王町や地域住民等との関係も良好で、地域住民から旬の野菜等の差し入れがあり、季節感のある食事を楽しんでいる。大泉記念病院の全面的な支援があり、7月からは特養の看護師が毎週来訪し、入居者や家族の安心に繋がっている。入居者は、毎日次亜塩素で消毒・清掃された清潔で明るい食堂でテレビを見たり、談話コーナーや暖かな渡り廊下のソファで会話をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホームふるさと

)「ユニット名 わが家

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてユニット会議時に職員間で話をして共有している。職員室内に理念を貼りいつでも見れるようにしている事により振り返りを行っている。	毎年振り返り、独自の理念「ゆったり・いっしょに・たのしく・豊かに」を継続し、具体化した「余裕・寄り添う・笑顔・思いやり」を作成した。クリスマスのプレゼント交換やレクリエーション時に楽しく実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方にはよく季節の野菜を届けてもらいます。行事の夏祭りや敬老会の時には地域の方がボランティアや慰問にきてくれます。	夏祭りには屋台、縁日、イベント等があり、約300人が参加して盛大に行われた。町の文化祭には入居者の手作り作品を出展している。東京芸大のホルン演奏会は「楽園が丘」の入居者と共に楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保健福祉課の方々がやっている認知症サポーター養成講座の手伝いを行い、認知症についてやグループホームの役割について話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者より活動内容等の報告を行うとともに、委員の方々より出た話や意見をサービスの向上に活かす様にしている。行事やその時行った事の写真を見てもらいながら取組について説明している。	奇数月に年6回開催されている。活動内容、入居者の状況、行事の情報交換等が行われている。ドライブで、車椅子で行ける場所としてセヶ宿ダムが綺麗との情報があった。行政や地域包括職員が不参加の時がある。	市町村職員または地域包括支援センター職員等が参加した会議を年6回以上開催することになっている。関係部署に依頼し、出席するようにしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や認定更新の実態調査で来所された時に待機人数や空き状況、利用者の方の現在の状況、町内の方のニーズ等の情報のやり取りを行い協力体制をとっている。	協力関係が築かれており、空き部屋、新入居者、見学希望者等に関する情報交換を行っている。管理者が蔵王高校で認知症サポーター養成講座やグループホームの役割について講話をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを開けており利用者様や地域の方々が入り出できるようにしています。又、法人全体の研修会を行い身体拘束についての知識を高めています。	各種研修計画があり、「施設内研修報告」により伝達し、全職員に「感想文」を書いてもらい確認している。車椅子の方の居室のトイレにセンサーを付けて、安全対策、排泄の確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にて虐待について学び、スタッフ同士でよく声を掛け合いケアにあたっている。特に言葉使いには気をつけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態として理解してもらえるように行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には管理者とユニットリーダーとで説明を行い、理解、納得を得て了承して頂いている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々には気兼ねなく意見を言えるような雰囲気(したしまれるような)作りをしている。意見や相談があった時にはスタッフ間で話あったり、運営推進委員会にて助言してもらうようにしている。	面会時や電話等で家族の意見、要望を聞いている。面会の制限や特養に移るよりホームにいたい希望があり、対応している。「ふるさとだより」の写真で元気な顔が見られて良いと好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で意見や提案を出してもらい、実践できる事や良い方向へ向かう事については実践出来るようにしている。利用者からのリクエスト食やセレクト食等を行っている。	希望の休暇が取れるようになった。入居者全員と出かけた希望で、「かっぱ寿司」で外食した。毎月の誕生日にはプリン、イチゴ、ジャガイモご飯等を楽しむなど職員の見取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、目標を設定し達成できるように日々取り組んでいます。又、職場の環境や人事考課、条件の整備、資格手当等に努めてくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会や外部研修を受講してもらい、質の向上につながるように努力しています。又、個人にて資格修得への学習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等に参加して、意見交換や、ストレスの解消を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に利用される方や家族の方に不安や困っている事について聞き、必ず本人に家族の方に「ふるさと」を見学をしてもらい少しでも不安な事をとりのぞけるようになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に現在の状況や要望、困っている事聞かせてもらい、GHについての説明等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴して、必要としている支援を見極めながら話合いや行動から決めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長室では一緒にお茶を飲む飲んだり、ゲームや作品作りをしたりをしています。又、部屋に行った時には家族や最近の出来事等、他者がいると話しにくい話をしたりしています。利用者の方の負担にならないように気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活状況等の近況報告等を行い、状態の変化や通院等があった場合には電話連絡を行い状況、状態の報告行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が面会に来た時には、自室や共有スペースでゆっくりと過ごして頂けるように努めている。	家族と外食、墓参り、外泊する方がいる。友人が面会に来て、談話コーナーや渡り廊下の暖かいところでソファに座り、会話をしている。月1回、馴染みの訪問美容師が来ておしゃれをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまく関わり合えるように、時には間に入りサポートしている。誕生会や喫茶店等の行事を増やし、みんなでいる時間を増やすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談やフォローを行うように努めている。又、利用されていた方が退所された後でも家族の方が地域住民として、そのまま運営委員を続けてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から希望等を聞き、なるべく意向にそえるような形で検討し支援している。希望や意向を伝える事が困難な方は今の現状、状態に考慮してどのようにしていくかを決めている。	散歩、入浴等で1対1になると、「早くひ孫の顔が見たい」と本音を漏らしてくれる。入居者同士や職員との会話で「昔食べたタクアンが食べたい」「〇〇さんは焼きそばが好きよ」等が分かり、希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。又、状態の変化等がみられた時はドクターへ相談して指示をいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見があればユニット会議で話し合ったり、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。	毎月モニタリングし、会議で話し合う。介護計画書は半年毎に、状況の変化時はその都度見直している。退院して車椅子使用の方の起立訓練や歩行介助を取り入れ、手押し車で歩けるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、スタッフ間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂き、それぞれの状況に合わせて、なるべく本人の意向に沿える対応を行っている。通院の送迎や付き添い、買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭に作品を出品するにあたりみんなで作品を考え作成したり、楽しく生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれがかかりつけの病院へ受診できるように家族と連絡をとり行っている。また、法人の車にて送迎を行う時もある。蔵王病院の先生が月に1度往診に来てくれている。	協力医(大泉記念病院)の2週に1回の回診がある。蔵王病院は月1回、内科の往診がある。希望するかかりつけ医の受診も出来る。今年7月から特養の看護師が毎週来訪してバイタルチェック等をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で併設の楽園が丘看護課の方が週に1回来所して利用者様の状態観察、適切な処置の仕方や助言をしてもらっている。又、協力病院との連携がスムーズに行われるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や入院となった時、退院等に向けて協力病院の先生方をはじめ相談員等との情報交換や連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針を決め事業所のできる事について家族に説明している。重度化した場合についての話し合いも必要に応じて行っている。	「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を家族に説明し、同意を得ている。昨年12月に、突発的に事例があり、協力医と町の協力を得た。職員全員が経過や対応手順を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変がおきた時には病院や救急隊に連絡を行い指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。救命処置やAEDの使用について内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が火災や災害が起きた時には協力していただけるような体制は築いている。	「楽園が丘」と合同で、春と秋の年2回、「回」は夜間想定で避難訓練を実施している。職員は毎週水曜日に、日中及び夜間想定で、どのように対応するかの流れを確認する独自の図上訓練を実施しているが記録がない。	訓練の実施計画、任務分担、避難要領、問題点、教訓、反省事項等や、消防署からの指導等を記録に残し、次回の訓練に繋げ、訓練の効果を上げる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉掛けを行い介助や支援につなげている。特に聴こえにくい方にはジェスチャーを交えたりと対応に気をつけている。	呼び方は、名前に「さん」をつけて呼んでいる。声がけは、入居者の視界に入り、大きな声を出さないように注意している。排泄で失敗した時は、他の人達に気付かれないように部屋に案内し交換している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や喫茶店で飲み物やおやつを2～3種類の中から選んでもらう等、自己決定できるように支援している。又、リクエスト食にて自分が食べたい物を選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体の状態やその日の状況、希望を聞きながら生活を送っていただくように努めている。コンテナまでのゴミ捨てではスタッフからの声掛けもあれば本人から「行こう」と言ってくる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装をしてもらうように一緒に洋服を選んだりしている。離床した時にはクシで髪の毛を整えてもらったり男性の方は髭剃りの声掛け、介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方が食べやすく飲み込みやすい形態、ミキサー食や刻み食、量や器、器が滑らないお盆等を使用して少しでも自力で摂取出来るように提供している。食器洗いや食後の下膳、お盆拭き等行ってもらっている。	準備ではもやしの芽取り、野菜の皮むき等、後片づけでは下膳、食器洗い等を行っている。近所からの差し入れ野菜等が食卓に上がる。文化祭には寿司職人が寿司を握り、マグロのお替りが自由である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量摂取出来るように形態を変えて、量や食器類等、その方の状態にあわせ提供している。テーブルとの高さが合わない方には座布団等を何枚か敷き調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入れ歯を外し口をゆすいでもらう方、声掛け、見守り、歯磨き介助、入れ歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	交換回数や時間帯を変えたりして、その方に合わせた排泄の支援を行っている。トイレ誘導や夜間チャイムでトイレに行った事を分かるようにして排泄ケアを行っている。	入居者のパターンを確認し、誘導や声掛けを行っている。夜間でもトイレ使用を確認できるが、2名の方がセンサーを使用している。退院時オムツ利用の方が、定期的な声かけで昼間はリハビリになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷たい飲み物や食事にフルーツを付けたり、家族さんが持参するヤクルトやフルーツジュースを毎日飲んでいる方もいる。又、ドクターに相談して薬の種類や量、飲む時間を等を変えるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入る順番を変えたり、スタッフ2名で介助を行う方、入浴を断る方には時間をあけて何度か声を掛けたり、声を掛けるスタッフを代えたりして対応している。入ってしまえばゆっくりされる方が多い。	要望や身体状態に対応し、週2~3回の入浴である。拒む方には職員を替えたり、往診があるなど声かけの工夫をしている。車いす利用の方には職員2名で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクや作品作り等で活動していただき、夜間は安眠していただけるように努めている。夜間や朝方に起きて来る方もいるが、その時は話をしたり、テレビを見てもらい少ししてから自室へ誘導したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。薬の変更等があった場合は連絡ノートを使用してスタッフ全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、ゴミ捨て等、それぞれ出来る事を行ってもらっている。毎日コーヒーやフルーツジュースを飲み、散歩や外気浴を行い気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを数回に分けて全利用者の方が外出が出来るように取り組んでいる。天気の良い日は散歩やゴミ捨てで外に出れるように支援している。又、家族と好きな時に外出が出来るように支援している。併設の施設で慰問がある時には出かけ楽しんでます。	ドライブは、春は白石のこけし村、温麺博物館、大河原のショッピングセンター等に、秋は柴田町の菊人形まつり、蔵王町のございんホールでの文化祭等に出かけている。日常的には、天気が良い日に、観音様周辺を散歩している。春は花見を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は利用者様、家族の要請を受け行っています。買い物等で使う際には出金して、台帳に記入を行っています。買い物に行った時には自分で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、好きな時に電話を掛けられる環境を整えている。家族から電話があった時には本人と話をしてもらうようにしている。手紙については郵便配達の時に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂に行事の写真やみなさんで作成した壁画物を飾り雰囲気作りをしている。又、七夕やお正月時にはそれぞれの部屋の前に飾り物をしている。食事時にはラジオを聞きながら摂取している。	日当たりが良く明るい食堂では、テレビを見たり、「タクアン」を食べながらお茶を飲み、お話をして寛いでいる。談話コーナーや渡り廊下のソファでもお話をしている。共用場所と居室は、感染対策の次亜塩素で毎日消毒・清掃し、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファー、テーブル、イスを設置しています。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、水分補給や外気浴を行っている。面会があった時にも使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の必要な物や使い慣れた物、テレビや写真や小物を飾りその方に合った部屋になっている。孫さんから届く絵葉書を飾り見せてもらっている。	位牌の水を毎日交換し、散歩時に見つけた花をあげている方がいる。自宅から持ち込んだ使い慣れた毛布、枕等を使用し、家族の写真や孫の絵手紙を壁に貼り、居心地の良い自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	チャイムを使用し、人工肛門の方がトイレに行った時に排便の確認等を行い残存機能の維持に努めている。声掛けや見守り、介助を行う事で安心して自分ができる事を行い、生活が送れるように支援しています。		